



<心の奥深くにあるもの>

欲深き汝は女なりや老婆なりや
真実と不確かな噂に惑う
もたれかけてるこの心
あまりにも遠い存在に
動かぬ足を歩ませて
いくつもの感性がきらめく
大好きな方への思いを伝えたくて
過ぎ行く時を惜しむように我を忘れて
語らいの中で思いの伝わらないもどかしさ
限られた時のおわり
ああなんて素敵な瞬間
それは遠い日の少女のままのように
愛しき人への想いを語る
憧れのシネマへの陶醉
そこにある真実が私を酔わせて
それぞれの日常に戻る道すがら
ひとりのご婦人の言葉が
忘れかけていた現実に戻す
浅はかなる邪心を生み
情けないまでに惑う
私の心は乱れ悩ましき愛しき人の姿に
意味のない愚かさをさらけ出して
消えかけた未練であがき苦しみ
この老婆の生きる事への未練なのか
女としてのときめきなのか

<私の存在>

不確かなる自分に
遠い昔に聞いた
森の奥の野生
揺れる想い
純然たる魅惑
私は何者
冷静な想いと
相反する邪心
存在の危うさ
私に近づく幻の姿は

いつだって愛しき人
花よりも尚美しくて
私の心を惑わす

<人恋しくて>

こんな日は心が騒ぐ
こんな日は少しだけ
悲しみが一粒の涙をながす
こんな日は手が痛くて
こんな日は足が重くて
辛さにも慣れてはいるはずなのに
こんな日は誰が愛を聴かせて
こんな日はときめきの恋も語りたい
もう私には昔の事だったはず
こんな日は心が痛い
こんな日は疼く体を持て余す
不安など消えていたはずなのに
こんな日はひと恋しくて
こんな日はただ恋しくて
想う言葉を誰につたえましょう

<悲しみよこんにちは>

じたばたじたばたと心だけが騒ぐ
ああ～さっきの言葉が消えてしまったね～
そんなに焦っても何かが足りなくて
今の私は何もないからっぽ
抜け殻になってる心が寂しいから
思いきり笑っちゃうしかない
昨日まで見るこの世界は美しくて
片目で見るとこの世界が今日からの私なんだよ
悲しみよこんにちは
どんなに不自由でもこの今を受け入れてさあ～
思い切りダンスを踊り
何もない自分を認めなさいよ
耳が聴こえない静寂は頭の中で擬音だけに変わり
足がふらついてよろめいてもただ夢中になってさあ～
とにかく抜け出したいんだね
このもやもやとした思いから
悲しみよこんにちは
そうなんだよいつだって私は私なのさあ～
もう十分に幸せなんだよと自分を慰めて
今日の虚しさが消えて

明日はきっと晴れやかな
青空に笑っていられるんだね

<昼と夜のあいだに>

真夜中の寝がえり
ほんの数秒前に
右を見てため息
そして左を向く
何度でもつづく
この意味のない
切ない動きが可笑しくて
心が寂しくて
そして又ため息をつく
昼と夜のあいだに
何が変わったのか
体中のエネルギーを
誰が持って行ってしまったの
誰かを攻める事も
誰かを求める事も
自分をなぐさめる事も
浅い眠りの中で
ただ疼く手にキスをして
ひとすじの涙が
虚しさを遠ざける

<今、逢いに行きます>

今、そちらに伺ってもいいですか
お空がとっても美しいから
この孤独な心が少しだけ
はれて来ましたから
愛しき人を想うだけで
この心が楽しいのです
冬の冷たい風が
この頬をなでました
この冷たい手や足が
疼き辛いけれど
この美しいお空の青い、碧い、
この色がちょっとだけ羨ましい
望みを叶える難しさを
このお空が映してる
そんな気がした

遠い想いがお空につづく

ポエム

<http://p.booklog.jp/book/34832>

著者：みしまゆみこ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/hsa33712/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/34832>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/34832>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.